

私が俳句に出会った街

都 福仁

戸堂博之氏に誘われてアカシア俳句会に楽しく参加させていただいていますが、語彙力に乏しく、また俳句についての知識もなく苦戦しています。そのような状況の中、俳句の句いがる話として私の人生経験を書いて送ったところ、それは面白いとのことで投稿した次第です。

1994年6月にオランダ最古のライデン大学の学位審査に参加しないかと Mydosh 教授から誘われ、ヨーロッパの格式のある儀式を経験することになりました。この儀式は物理学等に縁のない方にも興味があるのではと思い、ご紹介する次第です。

オランダと言えば日本では医師シーボルトがよく知られていますが、日本の動植物や地図等を集めてオランダに持ち帰っています。ライデン大学の近くに日本の小さな植物園がありますが、大学の中には日本から持ち帰った沢山の収集品が保管されています。その中に日本人の骸骨が沢山有るのに少し驚きました。

ライデン大学は世界最初（1855年）に日本語学科を開設していますが、オランダではよく知られていられしく私がライデンの公衆電話を使って日本に電話をかけようとして上手くいかず困っていたら電話局の人が気を利かせて大学の日本語学科につないでくれました。当然オランダに俳句愛好家も多く俳句の会があり会館の壁には写真のような俳句が書いてあります。当時は俳句に感心が無く会館に入っていないのが残念な思いです。



大学近くの俳句会館（現在大学は移転）



学位審査会場

さて、博士の学位審査ですが、審査に加わる教授は日本と同様 5 人程度で審査状況は全く違います。審査の当日には学生の両親を始め多くの親類縁者から学生の友人等 100 人程の人達が写真の中央の席に座ります。前方の机には法廷の裁判長のような威厳を正した儀仗の番人（不祥事があれば処罰をする：実際は厳粛な雰囲気作りで形式的）が立ち審査員は壁際の部屋の一段高い席に横に並んで座ります。

学位審査を受ける学生は牢獄のような小さな部屋で待ち、学位審査では被告のように前方の小さな机の前に立って審査員からの質問を受け、返答するわけです。まるで裁判のようです。

審査で合格となると後の祝賀会がまた大変です。私達審査員はほどほどに引き上げますが親類縁者や学友は朝まで大騒ぎになります。

翌朝偶然学位審査をした学生に会いました。彼は朝まで祝賀会に参加し、これから親類縁者にお礼の挨拶にいくとのことでした。彼は学位取得後小学校の先生になると言っていました。学位審査では教授達は伝統的な帽子とガウン着用です。ライデン大学はヘリウムガスを 1908 年に液化し、量子論的物性物理学の幕開けを告げる所になりました。